

〈依頼寄稿〉

中国莆田学院媽祖文化研究中心的研究成果及其展望

曾伟·林晶

2014年7月,经福建省哲学社会科学规划领导小组同意,莆田学院媽祖文化研究中心列入第一批福建省社会科学研究基地立项建设。以下对媽祖文化研究中心的研究成果与未来展望做简要介绍。

一、发展脉络

福建省社会科学研究基地媽祖文化研究中心(以下简称中心)的历史可以追溯到2005年成立的媽祖文化研究所,2008年升格为媽祖文化研究中心,2012年升格为媽祖文化研究院。中心挂靠莆田学院媽祖文化研究院,下设媽祖文化与社会治理研究、媽祖文化与社会发展研究、媽祖信俗世界非遗传承与保护研究、媽祖文化传播与在地化研究等四个研究团队。2017年10月、2021年6月中心顺利通过省社科规划办第一轮(2014—2017)、第二轮(2018—2020)考核评估。其中,第二轮考核评估为优秀。

二、科研力量

中心研究团队经过多年的培育,已形成一支以教授、博士为核心,核心成员41人,研究人员总数达76人,职称结构、学历结构、年龄结构和学科专长合理,立足校内,包含中国社会科学院古代史研究所、厦门大学、福建师范大学、华侨大学、世界媽祖文化研究暨文献中心(台湾)等校外单位的研

究队伍。中心41名核心成员中,教授10人、研究员2人、副教授16人、副研究员1人;40岁以下研究人员比例约为37%;中心成员拥有博士学位比例约56%。

三、科学研究

中心自成立以来,成员先后在《世界宗教研究》《中国史研究动态》等期刊发表论文200余篇,其中在CSSCI核心期刊发表论文42篇;在人民出版社、厦门大学出版社等出版社出版33部学术专著;先后立项承担科研项目93项,其中国家社科基金特别委托项目1项、国家社科基金一般项目8项、国家社科基金重大项目子项目1项、教育部社科项目1项、省社科基地重大项目36项、省社科一般项目5项、省社科青年项目2项,省社科台胞专项扶持项目及博士扶持项目各1项,省社科基金后期资助项目2项,福建省社会科学普及出版资助项目2项,省文艺发展专项项目1项,教育厅项目3项,横向项目29项;中心为国家及省市有关部门提供一批高质量决策咨询报告,研究中心成立以来成员分别在《光明日报》《福建日报》、省委政策研究室主办的《政研专报》、市委政策研究室主办的《决策参考》发表16篇研究报告,为各级政府决策提供科学参考。

创办学术刊物《媽祖文化研究》。2016年10月,经福建省新闻出版广电局批准,《媽祖文化研究》获得CN(Q)刊号。2017年

3月起,《妈祖文化研究》(季刊)正式出版发行。《妈祖文化研究》期刊在海内外公开发行为妈祖文化传播做出贡献,受到省市外事办的肯定。2020年11月12日受邀参加福建省外事办在莆田举行的“十四五”福建省外事工作调研会,汇报相关工作。《妈祖文化研究》(2020年第1期)在《福建审读通讯》审读报告中受到肯定,评价本刊专业性和学术性较强,栏目设置较合理,内容较丰富,一些文章论述较有深度,颇有特色。

四、人才培养

2016年起,开设每年一届的“妈祖文化传播人才培养特色班”。特色班实行单独教学和个性化培养,孵育具有较高传承弘扬妈祖文化能力的本科应用型专门人才,在全省乃至全国高校中首开妈祖文化本科专门人才培养的先河。2017年起,与福建师范大学合作联合招收社会工作(妈祖文化)专业硕士研究生,累计招收研究生12名。同年,《传承创新世界非遗——妈祖文化,打造莆田学院人才培养特色》获福建省第八届高等教育教学成果奖一等奖。2021年7月,学校以妈祖文化研究成果为主申请的新闻与传播专业学位授权点通过评审,莆田学院成为新增硕士点授予单位,即将开启硕士研究生教育。研究中心不断深化妈祖文化育人研究与实践,努力构建以践行社会主义核心价值观为主旨、立德树人为根本任务的“五育并举”育人模式。以“大爱”妈祖文化育人,培养立德行善、志愿奉献的精神,成为学校鲜明的办学特色之一。

五、服务社会

为了加强妈祖文化产学研合作,夯实妈祖文化传播人才实践教学基地,促进妈祖文化应用型人才培养,服务莆田打造世界妈祖文化中心,中心与各级政府、机构、企业建立了紧密合作关系。2016年与福州大学共建妈祖文化数据库。2020年与广东海启星

海洋科技有限公司、2021年与德化县恒丰佳创有限公司分别合作建立校外实践基地。2021年与莆田市妈祖文化陶瓷艺术馆共建妈祖文化艺术展示馆,以妈祖文化艺术作品助推妈祖文化传播,弘扬妈祖“立德、行善、大爱”精神,推动妈祖文化的创造性转化和创新性发展。2022年与三峡集团合作开展海上风电项目与妈祖文化相结合的研究。长期与湄洲妈祖祖庙董事会、广州南沙天后宫共同开展产学研合作项目,取得良好的社会效果。

依托中心,举办了四届海峡两岸妈祖文化体验营活动,有效促进了海峡两岸青年妈祖文化研习交流,推动了两岸融合发展。同时,也促进了东南亚国家的青年来校交流妈祖文化及其民俗传统技艺。

六、科研方向

(一) 新时代的妈祖文化研究

妈祖文化最为核心的“立德、行善、大爱”精神,可以面向全世界,推动建设人类命运共同体,体现了妈祖精神的当代价值。该方向的研究旨在进一步坚定文化自信,加大活化并有效运用地方特色文化资源的力度,开展妈祖文化在青少年中的传承与发展研究、妈祖文化与公益慈善事业研究等,为青年一代提供贴近实际、有地域特色的中华文化、中国精神教育平台。

(二) 妈祖文化与社会发展研究

将社会学的理论和方法应用于妈祖文化与海上丝绸之路建设关系、妈祖文化与两岸和平发展关系、妈祖文化产业发展、妈祖文化与国家治理研究、妈祖宫庙组织与民间社会管理研究等对当前国家、地方具有重大战略意义的具体社会发展现象的研究,探索妈祖文化在这些重要社会发展现象中的作用、机制、途径及应对措施。探索妈祖文化如何协调社会关系、规范社会行为、解决社会问题、保持社会稳定、推动社会发展。此应用研究中,既可以发展社会学理论,也可以使妈祖

文化与社会发展的一些具体研究取得突破。

（三）妈祖信俗传承与保护研究

通过妈祖文献资料整理与研究、妈祖音乐、妈祖民俗体育、妈祖工艺美术、妈祖文学研究等相关多学科研究，探索世界各地的妈祖祭典、服饰、习俗、艺术、历史文献、民间叙事和宫庙活动等非物质文化遗产的具体表现形式及其载体，研究其历史演变、文化形态、现代发展等，总结妈祖信俗的变化特点、影响因素和变化规律，提出妈祖信俗传承与保护的具体对策与措施，促进社会整合，维护中华优秀传统文化的主体性，同时增进世界各地妈祖文化的交流。

（四）妈祖文化传播与在地化研究

世界 40 多个国家和地区的妈祖信众在不同环境中创造出不同的妈祖文化体系，这些妈祖文化体系作为世界各地至今还广泛存在的一种民间文化、民间信俗，急需对其进行全面、系统的实地调查与统计。通过对妈祖文化的现状及其传播进行人类学的实地调查，并将它们与历史上的形态和传播过程进行对比研究，既能丰富我国的人类学和民俗学的研究内容，也可加强妈祖文化研究对现实社会的关怀。

七、学术交流

中心成立后，通过学术会议和学术刊物搭建的交流平台，与海内外妈祖文化研究专家学者建立了长期的学术联系，推动我校逐步成为世界妈祖文化学术交流中心。

中心先后主办了多场学术会议。自 2015 年至今，已连续主办八届“国际妈祖文化学术研讨会”。2014 年 8 月主办第二届海峡两岸妈祖文化学术研讨会。2014 年 11 月主办福建省社会科学界学术年会分论坛“妈祖视野中的妈祖文化与华文文学”学术研讨会。2015 年 6 月承办“第七届海峡论坛·妈祖文化与海上丝绸之路学术论坛”。2018 年 10 月，参与主办在韩国济州举办的“中韩（福

建—济州）海洋女性研究业务协议及交流研讨会”。2019 年 7 月在沈阳主办“妈祖文化与‘一带一路’建设”学术研讨会。同年 9 月在台湾地区主办“海峡两岸妈祖文化与地域发展”学术研讨会。2023 年 5 月举办福建省涉台研究机构联席会议 2023 年第一次专题研讨活动。2023 年 7 月举办了第四届两岸青年妈祖文化研习营暨学术研讨会。

八、优秀成果

（一）黄瑞国主编的《妈祖学概论》（人民出版社，2013）获 2016 年福建省第十一届社会科学优秀成果三等奖。

（二）陈祖芬主编的《妈祖信俗非物质文化遗产档案研究》（世界图书出版公司，2015）获 2018 年度福建省第十二届社科优秀成果三等奖。

（三）妈祖文献整理与研究丛刊编撰委员会主编的《妈祖文化整理与研究丛刊（第 2 辑）》（海峡文艺出版社，2017）获 2019 年度福建省第十三届社科优秀成果三等奖。

（四）杨旻蔚、马达撰写的论文《妈祖官祭八音考略》（《中国音乐》2019 年第 6 期）获福建省第十四届（2019—2020 年度）社会科学优秀成果奖二等奖。

九、未来展望

学校支持妈祖文化研究中心申报国家部级以上创新平台，重点布局以下研究方向：

妈祖文化与港澳台中华民族共同体研究，将妈祖文化置于中华文化范畴内考察，探索妈祖文化促进港澳台尤其是台湾地区民众的中华民族认同、筑牢中华民族共同体意识的独特价值；研究妈祖文化推进探索两岸深度融合发展新路径。

妈祖文化与 21 世纪海上丝绸之路研究，探索建设 21 世纪海上丝绸之路历程中妈祖文化桥梁纽带作用、经贸合作、文化交流中的独特价值；探讨妈祖文化与海洋文化产业融合互动关系。

妈祖文化与华侨华人中华文化认同研究，分析华人华侨对妈祖文化认知情况；探索妈祖文化促进华侨华人的中华文化认同功能、认同模式；研究妈祖文化对华人华侨新生代文化认同的影响和作用；探讨妈祖文化对中国—东盟合作的独特价值。

世界性非物质文化遗产妈祖文化的保护和传承研究，积极推进《妈祖文化研究》入列学术集刊建设方阵，推进妈祖宫祭八音复元项目建设，推进妈祖文化艺术博物馆、线上数字博物馆建设，挖掘妈祖文化与漕运、大运河的历史联系，加大对海外妈祖文献资料的整理与研究，编撰海外妈祖宫庙志，制作海外妈祖文化资料数据库，深入研究非物质文化遗产的科学保护方式和活态传承方式，开发文创产品、文旅品牌标识，壮大妈祖文化产业，促进两岸妈祖文化旅游产业的融合发展。

※ 上述报告是由京都文教大学共生研究推进中心的研究课题“关于东亚民间信仰与宗教习俗融合的调查研究—以妈祖为主的海洋信仰为中心”研究会（代表者：潘宏立·林雅清）推荐，作为研究成果的一部分而公开发表为目的，由本课题共同研究员曾伟·林晶所执笔撰写。

两位研究员所属的莆田学院妈祖文化研究院是中国大陆的妈祖文化研究中心，每年世界各国的妈祖研究者汇聚一堂举行的国际妈祖文化学术研讨会也是由该研究院为核心负责操办的。他们参加本研究会对于我们了解中国的妈祖研究现况贡献颇丰。

曾伟·林晶的报告详细介绍了中国妈祖研究中心之一的莆田学院妈祖文化研究中心的历史与现状，是了解中国有关妈祖研究推进状况的宝贵报告。（“关于东亚民间信仰与宗教习俗融合的调查研究—以妈祖为主的海洋信仰为中心”研究会·综合社会学部研究纪要委员会）

〈日本語訳〉

中国莆田学院媽祖文化研究センターの研究成果と展望

曾 偉・林 晶

莆田学院媽祖文化研究センターは、2014年7月、福建省哲学社会科学計画指導グループの同意を得て、第1期の福建省社会科学研究基地の一部に組み入れられた。以下に、莆田学院媽祖文化研究センターの研究成果及び将来の展望について簡単に紹介する。

1. 発展の経緯

莆田学院媽祖文化研究センター（以下、センターと略称する）の歴史は、2005年に設立された媽祖文化研究所にさかのぼることができ、2008年に媽祖文化研究センター、2012年に媽祖文化研究院に昇格した。センターは莆田学院媽祖文化研究院に属し、下に①媽祖文化と社会ガバナンス研究、②媽祖文化と社会発展研究、③媽祖信俗世界無形遺産伝承と保護研究、④媽祖文化伝播と現地化研究の4つの研究チームが設置されている。2017年10月、センターは福建省社会科学計画弁公室第1ラウンド（2014-2017年）の審査評価を、また2021年6月に第2ラウンド（2018-2020年）の評価を順調に通過した。その中で、第2ラウンドの審査評価は優秀である。

2. 研究スタッフの構成

センターの研究チームは長年の育成を経

て、教授、博士を核とし、コアメンバーが41名、研究者が総数76名に達している。研究者の職位構成、学位、年齢構成と研究の専門性は適格的で、莆田学院内に中心を置きながらも、中国社会科学院古代史研究所、厦門大学、福建師範大学、華僑大学、世界媽祖文化研究及び文献センター（台湾）などの校外機関の研究チームを含む。センターの41名のコアメンバーの内訳は、教授10人、研究員2人、准教授16人、副研究員1人であり、40歳以下の研究者の割合は約37%であり、センターメンバーが博士学位を持つ割合は約56%である。

3. 研究成果

センターの設立以来、メンバーは『世界宗教研究』『中国史研究動態』などの定期刊行物に総計で200余編の論文を発表し、そのうちCSSCI（「中国社会科学引用索引」）の採録対象となる定期刊行物に42編の論文を発表した。人民出版社、アモイ大学出版社などの出版社で33部の学術専門書を出版した。科学研究プロジェクト93項目を引き受け、そのうち国家社会科学基金特別委託プロジェクト1項目、国家社会科学基金一般プロジェクト8項目、国家社会科学基金重大プロジェクトサブプロジェクト1項目、教育部社会科学プロジェクト1項目、福建省社会科学基地重大プロジェク

ト36項目、福建省社会科学一般プロジェクト5項目、福建省社会科学青年プロジェクト2項目、福建省社会科学台胞特別支援プロジェクト及び博士支援プロジェクト各1項目、福建省社会科学基金後期助成プロジェクト2項目、福建省社会科学普及出版助成プロジェクト2件、福建省文芸發展特別プロジェクト1件、教育庁プロジェクト3件、横断プロジェクト29件である。センターは国家及び省・市の関係部門に高品質な政策決定諮問報告書を提供し、センターの設立以来メンバーはそれぞれ『光明日報』『福建日報』、省委員会政策研究室が主催した『政研專報』、市委員会政策研究室が主催した『政策決定参考』で16編の研究報告書を発表し、各級政府の政策決定に科学的参考を提供した。

センターの学術刊行物『媽祖文化研究』（季刊）は2016年10月、福建省新聞出版広電局の許可を得て、中国国内統一刊号CN(Q)号を取得し、2017年3月から正式に出版・発行されることになった。『媽祖文化研究』は定期刊行物として国内外で発行され、媽祖文化の伝播に貢献し、省・市外事弁公室からも高く評価されている。2020年11月12日に福建省外事弁公室が莆田で開催した「十四五」福建省外事工作調査会に招待され、関連業務を報告した。『媽祖文化研究』（2020年第1期）は『福建審読通信』の審読報告書においてその専門性と学術性が高く評価された。掲載内容が適格的で、内容が豊富で、文章の論述も深く、特色があると評価された。

4. 人材育成

センターは2016年から年に1回「媽祖文化伝播人材育成特色班」を開設している。特色クラスでは単独教育と個性化育成を実行し、媽祖文化を伝承発揚する能力の高い応用型専門人材を育成し、全省ひいては全国の大学で初めて媽祖文化をテーマと

する専門人材育成の先駆けとなった。2017年からは、福建師範大学と協力して社会事業（媽祖文化）を専門とする修士課程大学院生を総計で12名募集した。同年、『革新世界遺産—媽祖文化を伝承し、莆田学院の人材育成の特色をつくる』は福建省第8回高等教育教育成果賞の1等賞を受賞した。2021年7月、媽祖文化研究成果に基づいて申請したジャーナリズム・コミュニケーション専門職学位授与権が審査を通過し、莆田学院は新たに修士大学院生教育を開始する。センターは媽祖文化教育の研究と実践を絶えず深化させ、社会主義の核的価値観を主旨とし、徳を立てて人を育てることを根本的任務とする「五育並進」教育モデルの構築に努力している。「大愛（大いなる愛を捧ずる）」の媽祖文化で人を育成し、徳を立てて善行を行い、ボランティアの精神を育成し、莆田学院の特色の一つとなった。

5. 社会貢献

センターは、産・官・学の協力を強化し、媽祖文化についてのコミュニケーション人材の実践的教育の基礎を固め、媽祖文化を応用できる人材の育成を促進し、莆田を世界の媽祖文化の中心とするため、中央および地方政府、機関、企業と緊密な協力関係を構築した。2016年に福州大学とともに媽祖文化のデータベースを構築した。2020年に広東海啓星海洋科学技術有限公司、2021年に徳化県恒豊佳創有限公司とそれぞれ協力して校外に実践拠点を設立した。2021年に莆田市媽祖文化陶磁器芸術館と共同で媽祖文化芸術展示館を建設し、芸術作品を用いて媽祖文化の伝播を促進し、媽祖の「徳を立て、善行を行い、大いなる愛を捧ずる」精神を発揚し、媽祖文化の創造的展開と革新的發展を推進している。2022年に三峡グループと協力して海上風力発電プロジェクトと媽祖文化を結合した研究を

展開する。湄州媽祖廟取締役会、広州南沙天后宮と長期にわたり産学協力プロジェクトを展開し、良好な社会的貢献を果たしている。

センターは、海峡兩岸の媽祖文化体験キャンプを4回開催し、海峡兩岸の青年の媽祖文化についての研究交流を効果的に促進し、兩岸の融合発展を推進した。また、東南アジア諸国の青年が莆田学院を訪問し、媽祖文化と民俗伝統芸能の交流が促進された。

6. 研究動向

(一) 新時代の媽祖文化研究

媽祖文化の最も核心的な「徳を立て、善行を行い、大いなる愛を捧げる」という精神は、全世界に向けて、人類運命共同体の建設を推進することができ、媽祖精神の現代的価値を体現している。この方面の研究の目的は、文化的な自信を強化し、特色ある文化資源をより有効に活かし、媽祖文化の青少年の伝承と発展に関する研究、媽祖文化と公益慈善事業の研究などを推進し、実社会に即して若い世代の人々に地域の特色のあるかたちで中華文化と中国精神を提供する教育プラットフォームとなることである。

(二) 媽祖文化と社会発展に関する研究

媽祖文化と海上シルクロード建設の関係、媽祖文化と兩岸の平和と発展の関係、媽祖文化と産業の発展、媽祖文化と国家統治の研究、媽祖宮廟の組織と民間社会の研究など、現在の国家、地方に対する重要な戦略的意義を持つ具体的な社会発展現象の研究に社会学の理論と方法を適用し、これらの重要な社会的発展現象における媽祖文化の役割、メカニズム、経路及び対応策を究明する。媽祖文化がどのように社会関係を調和させ、社会行為を規範化し、社会問題を解決し、社会の安定を維持し、社会の

発展を推進するかを探究する。この応用研究では、社会学理論を発展させることも可能であるし、媽祖文化と社会発展のいくつかの具体的な研究を突破させることも可能である。

(三) 媽祖の信仰民俗と保護に関する研究

媽祖の信仰民俗の伝承と保護に関する研究。媽祖の文献資料の整理と研究、媽祖の音楽伝承、媽祖の民俗体育文化、媽祖の工芸美術、媽祖の文学研究などの学際的研究を通じて、世界各地の媽祖の祭典、服飾、習俗、芸術、歴史文献、民間伝承と宮廟祭事などの無形文化遺産の具体的な表現形式とその変遷を探究する。その歴史的变化や文化形態、現代的発展などを研究することで、媽祖の信仰民俗の変化の特徴、要素と変化のパターンを把握し、媽祖の信仰民俗の伝承と保護に対する具体的な対策と措置を提示する。それにより社会の統合を促進し、中国の優れた伝統文化の本質を維持し、同時に世界各地の媽祖文化の交流に貢献する。

(四) 媽祖文化の伝播と現地化の研究

世界40以上の国と地域の媽祖信徒は、異なる環境の中で異なる媽祖の文化体系を創造した。これらの媽祖の文化体系は世界各地に今なお広く存在する民間文化、民間の信仰民俗の一種として、包括的で系統的な実地調査と統計を行う必要がある。媽祖文化の現状とその伝播に対して人類学の実地調査を行い、それらを歴史上の形態や伝播の過程との比較研究を行うことによって、我が国の人類学と民俗学の研究内容を豊かにすることができるだけでなく、媽祖文化研究の現実社会に対する関心を強化することもできる。

7. 学術交流

センター設立後、学術会議や学術刊行物

を通じて構築された交流プラットフォームは、国内外の媽祖文化研究専門家や学者の間に長期的な学術的つながりを構築し、莆田学院を世界の媽祖文化に関する学術交流の中心になるよう推進してきた。

センターは相次いで多数の学術会議を主催した。2015年から現在まで、8年連続で「国際媽祖文化学術シンポジウム」を主催した。2014年8月には第2回海峡兩岸媽祖文化学術シンポジウムを主催した。2014年11月に福建省社会科学界学術年会分科フォーラム「媽祖からみた媽祖文化と中国文学」学術シンポジウムを主催した。2015年6月に「第7回海峡フォーラム・媽祖文化と海上シルクロード学術フォーラム」を開催した。2018年10月、韓国済州で開催された「中韓（福建-済州）海洋女性研究に関する業務協議及び交流シンポジウム」に参加した。2019年7月に瀋陽で「媽祖文化と『一帯一路』建設」学術シンポジウムを主催した。同年9月に台湾地区で「海峡兩岸媽祖文化と地域発展」学術シンポジウムを主催した。2023年5月に福建省台湾関連研究機構合同会議2023年第1回特別テーマ討論活動を開催した。2023年7月に第4回兩岸青年媽祖文化研究キャンプ及び学術シンポジウムを開催し、11月17日に媽祖大愛平和フォーラム及び第9回国際媽祖文化学術シンポジウムを開催した。

8. 優秀な成果

(一) 黄瑞国監修『媽祖学概論』（人民出版社、2013年）は2016年福建省第11回社会科学優秀成果三等賞を受賞した。

(二) 陳祖芬監修『媽祖信俗無形文化遺産ファイル研究』（世界図書出版会社、2015年）は2018年度福建省第12回社会科学優秀成果三等賞を受賞した。

(三) 媽祖文献整理・研究叢書編纂委員会監修『媽祖文化整理と研究叢書（第2集）』（海峡文芸出版社、2017年）は2019年度

福建省第13回社会科学優秀成果三等賞を受賞した。

(四) 楊旻蔚・馬達の論文「媽祖官祭八音考略」（『中国音楽』2019年第6期）は福建省第14回（2019-2020年度）は社会科学優秀成果賞2等賞を受賞した。

9. 将来の展望

莆田学院は、媽祖文化研究センターが「国家部級」以上の革新プラットフォームに申請することを支援し、以下の研究方針を重視する。

媽祖文化と香港・マカオ・台湾の中華民族共同体に関する研究。媽祖文化を中国文化の範疇に位置づけ、媽祖文化が香港・マカオ・台湾、特に台湾の民衆の中華民族アイデンティティを促進し、中華民族共同体意識を強固にする独特な価値を探索する。媽祖文化が兩岸の深い融合発展を推進する新たな道を模索する。

媽祖文化と21世紀海上シルクロードの研究。21世紀海上シルクロードの建設過程において媽祖文化が架け橋となる役割、経済貿易協力、文化交流などの面でも独特の価値を模索する。媽祖文化と海洋文化産業の融合と相互関係を検討する。

媽祖文化と華僑華人の中華文化アイデンティティの研究。華人華僑の媽祖文化に対する認識状況の分析、媽祖文化による華僑華人の中華文化アイデンティティ促進機能、アイデンティティモデルの探索、媽祖文化が華人華僑の新世代の文化的アイデンティティに与える影響と役割を研究する。中国—ASEAN協力に対する媽祖文化の独特な価値を検討する。

世界的な無形文化遺産の媽祖文化の保護と伝承研究を積極的に推進し、学術誌である『媽祖文化研究』への掲載を積極的に推進する。媽祖官祭の八音復元プロジェクトの推進、媽祖文化芸術博物館・オンラインデジタル博物館の建設の推進、媽祖文化と

水運・大運河の歴史的つながりの掘り起こし、海外の媽祖文献資料の整理と研究の強化、海外の媽祖宮廟志の編纂、海外の媽祖文化資料データベースの作成、無形文化遺産の科学的保護方式と生きた伝承方式の研究、「文創製品」・「文旅」ブランドの開発により、媽祖文化産業を拡大し、兩岸の媽祖文化観光産業の融合発展を促進する。

※ 上記報告は、京都文教大学ともいき研究推進センター研究助成「東アジアにおける民間信仰と宗教の習合に関する調査研究—媽祖をはじめとする海洋信仰を中心に」研究会（代表者：潘宏立・林雅清）の推薦により、その研究成果の一部を公表することを目的として共同研究者の曾偉・林晶氏に依頼したものである。

両氏が所属する莆田学院媽祖文化研究院は、中国本土における媽祖研究のセンターであり、世界の媽祖研究者が一堂に会する国際媽祖文化学術シンポジウムは同研究院のメンバーが中核となって運営されている。また、両氏の本研究会への参加は中国での媽祖研究の現在を知るうえでの貢献が大きいものがある。

両氏の報告は、中国における媽祖研究の中心の一つである莆田学院媽祖文化研究センターの歴史と現状を詳述したものであり、中国における媽祖研究の推進の状況を知ることができる貴重な報告といえる。（「東アジアにおける民間信仰と宗教の習合に関する調査研究—媽祖をはじめとする海洋信仰を中心に」研究会・総合社会学部研究紀要委員会）